

八戸運輸区分会で

原因究明委員会を開催！

八戸運輸区分会では、

- ①435Dの事象(緑の風・2023年12月1日付の号外参照)
- ②当直から車両状態の伝達漏れによって、入区車両に遅れが発生した事象
- ③入区線に在線車両があり、3両しか入らない番線に4両を入線させた事象
- ④当直からの着信で停車後、当直の指示で運転再開した事象

など、安全を脅かす事象が連続して発生していることから4月3～4日に原因究明委員会を開催しました。職場では「真の対策を行い、次の事象を発生させないために、事象の内容をしっかりと共有し、原因をハッキリさせる必要がある」との多くの声が組合員だけでなく未加入者からも出ています。原因究明委員会では、当該乗務員の心境や会社対応など、さまざまな角度から意見を出し合いました。

～原因究明委員会で出された意見～

当直



今日は八戸駅到着後、
回金回収無いです。

- ※業務用携帯に発信
- ※営業列車を停車させる

- なぜ運行状況を確認しなかったのか？当直は業務用携帯電話の取り扱いや着信で列車がどうなるのか、わかっていないのか！？
- 業務用携帯の位置付けを知らなかった。
- 電話が鳴っても止まる意識がなかった。もう少しで駅に着くので。
- 伝えなくてもいいことを連絡し、多くの人に迷惑をかけている。

- 当直に「大丈夫」と何度も言われたり、列車の遅れがあれば行ってしまおうかもしれない。
- 駅直の運転士ということも一因にあるのではないか。
- 当該の当直から言われても、信用できないので指令に連絡する。
- 事象の掲示は、運転士があたかも悪いような書き方ではないか？

運転士



本当に大丈夫かな！？
当直から大丈夫と
言われたから、
運転再開しよう！



当直



指令へは当直から
連絡するので、無線連
絡はいらないですよ。

- 当直は、隠そうとした意図が見える。
- 管理者のミスが多い。聞き取りの内容を明らかにすべき。
- 普段から「おかしいと思ったら列車を止める」という意識を持たないと、いざという時に止められない。
- この間、管理者のミスを隠した結果が事象につながっている。

未加入者のみなさん！

背後要因から真の対策を打ち出し

私たちと共に「安全」をつくり出そう！